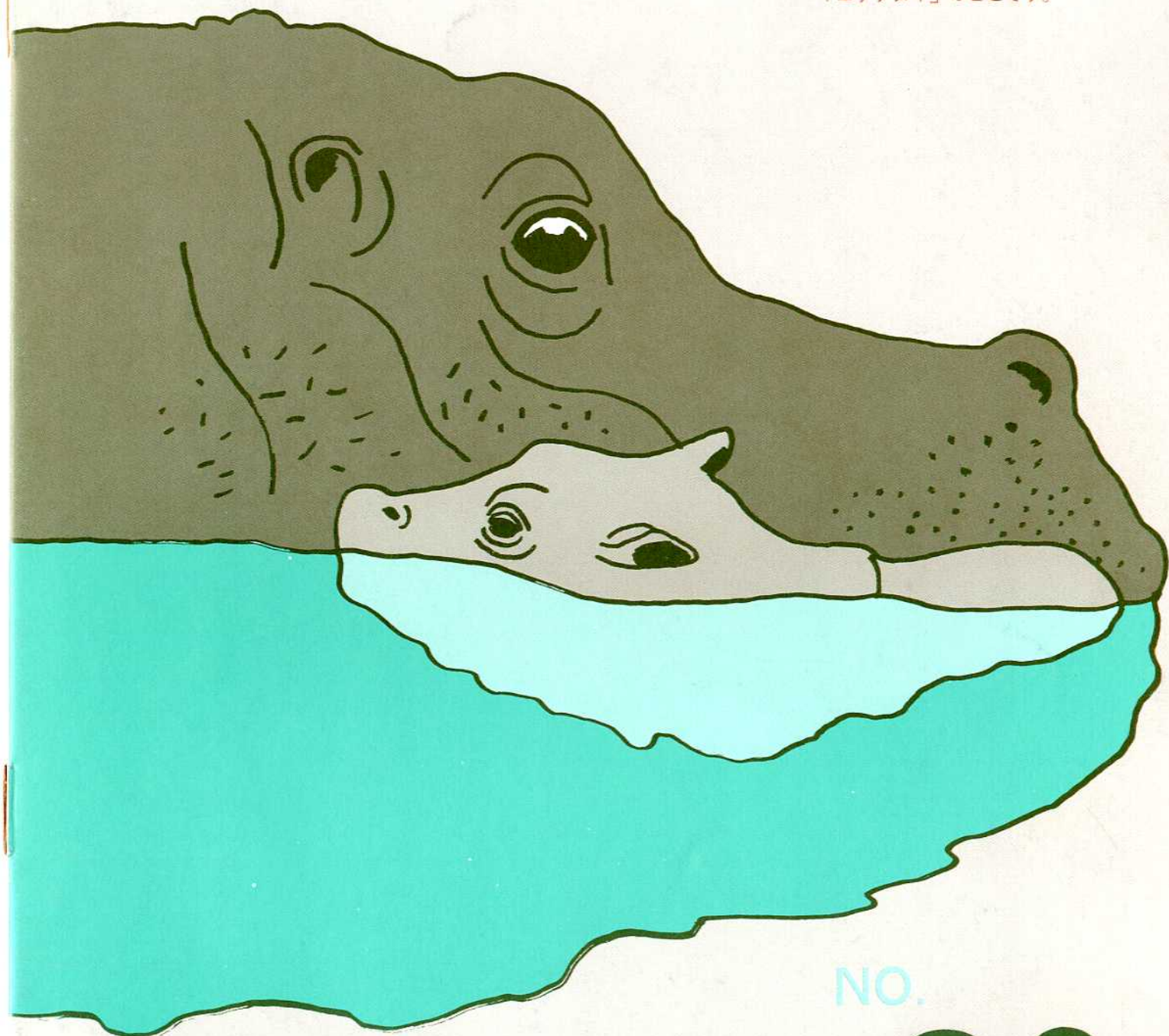




あさひやまどうぶつえんニュース
ASAHIYAMA ZOO NEWS

モユク★カムイ

☆モユク・カムイとはアイヌ語で
「エゾタヌキ」のことです。



NO.

30

NOV 1992



表紙のことは

動物の赤ちゃんはどれもみんな
めんこい。赤ちゃんが産まれるたび
新鮮で、やさしい気持ちに
させられ、そう思う。あべの赤ちゃんも
もちろん。そう、あのでっかいお母さんに
見えかくれする、ちっちゃい赤んぼカバは
特にめんこい。

森もくじ

- 2 ほっとひとPhoto
- 3 新・動物解析考 小倉百人一首の秋
- 4.5 シリーズ「動物ってなんだろう？」
第5回「リス・ネズミ・ウサギの仲間」
その2 ネズミ
- 6.7 第24回児童動物画コンクール優秀作品
- 8 最近の動物園事情
Vet News (動物病院から)
- 9 飼育研究レポート
- 8年ぶりの出産 -
- 10 ゲンちゃんの追求コーナー
- どうして犬はしゃべれないの -
クイズ
- 11 飼育日誌・お知らせ



新・どうぶつ解析考

百人一首

秋の歌には動物がよく詠まれている

あしひきの 山鳥の尾の しだり尾の
ながながし夜を ひとりかも寝む

柿本人麿

ヤマドリは長い尾、それも先がスッと下がっているところまでよく観察していると思う
ヤマドリは昼は夫婦と一緒にいるが、夜は谷をへだてて別々に寝るとされていたそうで、何ともおもしろい発想だ

きりぎりす なくや霜夜の さむしろに
衣かたしき 独りかも寝む

後京極摂政前太政大臣

有名な歌である。きりぎりすがコオロギを指すことがよく知られているのは、この歌のおかげ
ちなみに、キリギリスのことは“はたおり”と言った

秋の動物は、やはり鹿。百人一首にも三首に読み込まれている代表はこの歌。紅葉と鹿のイメージを定着させた

奥山に 紅葉ふみわけ 鳴く鹿の
声きくときぞ 秋はかなしき

猿丸大夫

シカの声が悲しく聞こえるのも 秋のせい
秋はいつの世も、もの想う秋で、人を悲しくさせるようだ
ただし、北米産のワビチの声は、どんな精神状態で聞いても悲しくは聞こえない
やはり秋を感じさせるのは日本の鹿だ

第5回 「リス・ネズミ・ウサギの仲間」

野ねずみは地球上で一番繁栄している「けもの」ですが、その生活は意外と知られていません。なぜでしょう？



その3

野ねずみ



●げっ歯目ネズミ科

“ねずみ”と聞いただけでも「わーっ、いやだ」と感じる人がたくさんいると思いますが、そのとき頭に浮かべる“ねずみ”はいわゆる「家ねずみ」と呼ばれているもので、世界中にすむネズミ約1,000種のうち、ドブネズミ、クマネズミ、ハツカネズミのわずか3種にすぎません。これらはもともと日本にはすんでいなかったネズミで、いつの頃から外国から船で運ばれ、野生化したものと考えられています。

実は日本にも、もともとすんでいた野生のネズミがいます。小さくて、可愛らしく、赤褐色の美しい毛並をしたネズミで「野ねずみ」と呼ばれます。今回はこの「野ねずみ」を取り上げます。

●日本の野ねずみ

日本には表1のとおり21種の野ねずみがいる。大きく分けて、ネズミ亜科とキヌゲネズミ亜科の2つのグループがある。両者は臼歯の構造の違いで分けられるのだが、外見では「耳が大きく、尾が長く、ねずみらしい姿をしているのがネズミ科」で、「耳が丸くて小さく、尾が比較的短く、ずんぐりとした体、本当にねずみ？と思ってしまうのがキヌゲネズミ亜科」だ。

表1

ネズミ亜科

- アカネズミ
- エゾアカネズミ
- カラフトアカネズミ
- ミヤマアカネズミ
- シマアカネズミ
- ヒメネズミ
- セスジネズミ
- カヤネズミ
- アマミトゲネズミ
- ケナガネズミ

キヌゲネズミ亜科

- エゾヤチネズミ
- ミカドネズミ
- リシリムクゲネズミ
- ミヤマムクゲネズミ
- シコタンヤチネズミ
- ニイガタヤチネズミ
- ワカヤマヤチネズミ
- トウホクヤチネズミ
- スミスネズミ
- カゲネズミ
- ハタネズミ

●北海道の野ねずみ

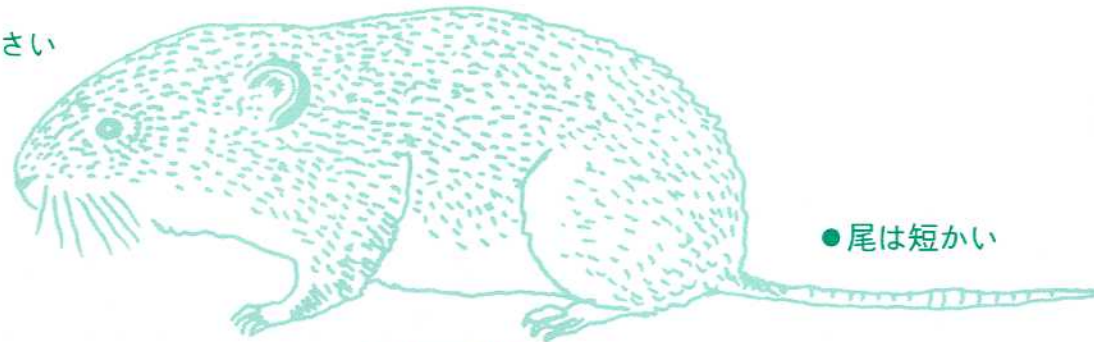
属名	種名または亜種名	頭胴長	尾長
ヤチネズミ属	エゾヤチネズミ	133mm	50mm
	ミカドネズミ	95mm	40mm
	リシリムクゲネズミ	エゾヤチネズミよりやや大型	
	ミヤマムクゲネズミ	エゾヤチネズミよりやや大型	
アカネズミ属	ヒメネズミ	84mm	100mm
	エゾアカネズミ	114mm	104mm
	カラフトアカネズミ	85mm	78mm

<注>体長、尾長ともに成体(おとな)の平均値

エゾヤチネズミ

Clethrionomys bedfordiae

- 河川敷や草原・田畑など
いろいろな環境にすむ
- 背毛は赤褐色
- 耳は丸く小さい
- 目は小さくつぶら
- 尾は短い
- ぶんぐりした体つき
- 腹毛は黄褐色



- 耳は大きい
- 背毛はキツネ色
- 目はぱっちり
- 腹毛は白
- 尾は長い



エゾアカネズミ

Apodemus aim

●おもに森林にすむ

●エキノコックス

道東の風土病と思われていたエキノコックス症が全道で発見され、大きな社会問題となっています。このエキノコックス症は多包条虫という寄生虫が人間の肝臓に寄生して起こす病気です。

多包条虫の生活は親虫がキツネの腸内に寄生し、産卵します。卵は野ねずみの口から取り込まれると、幼虫が肝臓に寄生します。その野ねずみがキツネに食べられて、幼虫が狐の腸内で成虫となります。卵が直接キツネに入っても感染しませんので、多包条虫の生活には野ねずみとキツネが必要です。親虫の寄生するキツネを終宿主、幼虫の寄生する野ねずみを中間宿主といいます。

エキノコックスにかからないようにするために、「北海道のキツネを残らず殺してしまえ」という暴論を口にする人もいますが、そのようなことはできるはずありませんし、またするべきでもありません。キツネを人間の生活域に立ち入らせないようにすれば、ある程度感染を防止することができます。観光地でキツネの餌付けをしたり、農地の近くにキツネの餌となるようなものを捨てたりすることは、キツネの生息数を増やし、キツネを人に近付けることとなります。これではエキノコックス症にかかりたいといっているようなものです。野生動物と上手につき合するには、正しい知識が必要なのです。

●食料源

野ねずみはキツネ、テンなどの肉食動物や、ワシ、タカ、フクロウなど猛禽類の重要なエサとなっており、繁殖力も旺盛で個体数も非常に多い。

研究者がフクロウのペリットから食べていた動物を調べたところ、なんとエサの90%以上が野ねずみだったことが判った。

野ねずみは森林や畑に多くの被害をもたらす動物だ。もしフクロウがいなければ、その被害はどのようなものとなるか、想像すらできないだろう。

※ペリット：猛禽類などがエサをまる飲みにして、消化できないものをまとめて吐き出したもの。ほとんどが骨や毛なので食性の研究には最適。

